

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 8 月 2 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560781

研究課題名(和文) 明治期日本建築界の満洲調査における歴史的及び現代的意味

研究課題名(英文) A Study on the Historical and Modern Meaning of Japanese Architects' Manchuria Field works in Meiji

研究代表者

奥富 利幸 (OKUTOMI, Toshiyuki)

近畿大学・建築学部・教授

研究者番号：70342467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、伊東忠太、大江新太郎、佐野利器、大熊喜邦などをはじめ、明治期の日本人が実施した満洲建築調査を体系的に整理し、再調査をした。そして、1909年に伊東忠太が提出した進化主義の思想と中国調査の関連、大江新太郎の瀋陽故宮の調査とその後の進化主義作品との関連、明治期の調査記録と現在の遺存状況を比較し、歴史記録の現代における価値などを明らかにした。研究成果を論文や著書に留まらず、日本と中国及び欧米の建築史研究者による国際シンポジウムを主催し、20世紀初頭の日本人満洲建築調査の現代的意義を国際的な円卓で再検討した。

研究成果の概要(英文)：This research focused on Japanese Architects' Manchuria fieldworks in Meiji era, especially the Manchuria survey had been done by Chuta Ito, Shintaro Ohe, toshigata Sano, Yoshikuni Okuma. In this project we systematize the Meiji era's fieldwork and have compared the historical record with the building's present condition. The research Achievements are not only the papers and books but also the symposium which the Japanese and Chinese scholars exchange the thinking to make the Japanese Architects' Manchuria Fieldwork's historical and modern meaning clearly.

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：近代 満洲 伊東忠太 大江新太郎 北京 瀋陽

1. 研究開始当初の背景

近代では、日本人により満洲を含む中国、朝鮮建築調査が数多く行われ、伊東忠太や関野貞を筆頭に史学史的に検討されてきた。

一連の調査で、満洲調査は、日本人が行った中国調査の中でも地域性があり、歴史的、学術的に解明する意義が特に大きいと考えた。

満洲は中国文化の周縁部で、1930年代に中国人の建築史研究組織が発足した後も、中国人による満洲建築調査がされておらず、20世紀初頭の日本人満洲建築調査は現在でもその記録の貴重性は失われていない。

さらに、これらの調査データを現在の歴史的建造物と照合すれば、非漢族文化圏の満洲建築史を再構築する糸口が見つかる可能性がある。

つまり、中国建築史の構図を多元化するという現代的課題も含む研究課題である。

2. 研究の目的

本研究では、明治期の建築界が行った満洲調査を研究対象とし、調査資料と調査対象の歴史的建造物を照合しながら、調査の歴史的、学術的な意味に関して、次の点を明らかにする。

(1) 明治期の日本建築界における中国調査の中での満洲調査の位置付けを明らかにする。

(2) 満洲調査を明治期の日本建築界の動きや他の中国調査と比較、分析して、相互の影響関係を明らかにする。

(3) 満洲調査の対象となった歴史的建造物を、現地で再調査することによって、その史料価値を明らかにする。

(4) 伊東忠太と大江新太郎の設計活動と関連させて考察し、満洲調査の影響を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、まず明治期の日本人研究者が調査した歴史的建造物を再調査し、明治期の調査時と現状が比較できるリストを作成し、それを後の世代の村田治郎や伊藤清造などの日本人による調査と戦後に中国人が行った調査の各結果を収集して、総合的な調査結果により、満洲の歴史的建築物の全体像を描き出す。

さらに、伊東忠太や大江新太郎など、設計を手がけた研究者の作品を整理して、その設計手法と満洲調査の関連を分析する。

4. 研究成果

日本人の満洲調査が最も早い基礎的データであり、のちの中国建築史を構築する際の基礎になったことを明らかにし、同時に、満洲調査と伊東忠太の世界建築体系における認識の形成との関連性及び大江新太郎の進化主義様式の設計作品との関連性を明らかにした。

また、本研究では、満洲調査の記録に基づき、新たな建築史、都市史研究を展開させた。更に、満洲調査史料を元に、調査対象の歴史的建造物の現状を調査し、現存していれば損壊状況を確認し、保存のための基礎的情報を整理したことで、戦前の調査成果を現代の歴史的建造物の保存に活用する仕組みを構築した。

最終年度に、中国、日本及び欧米の建築史研究者による国際シンポジウムを主催し、日本人の満洲建築調査の歴史的、現代的な意味を国際的な円卓で再検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

著者：包慕萍

論文題名：「蒙古帝国之後的哈刺和林木構仏寺建築(モンゴル帝国以後のハラホリン木造仏寺建築)」

雑誌名：中国建築史論叢刊 第8輯

査読有無：有

出版社：中国建築工業出版社 北京

出版年：2013

掲載頁：pp172-198

著者：包慕萍

論文題名：「从遊牧文明的視角重探元大都的都市规划：从哈刺和林到元大都」

雑誌名：中国建築史学会 2013 年大会論文集

査読有無：有

出版社：中国建築史学会、寧波

出版年：2013

掲載頁：pp655-667

著者：奥富利幸、包慕萍

論文題名：「大江新太郎の瀋陽故宮調査とその方法」

雑誌名：中国近代建築研究と保護(八)

査読有無：有

出版社：清華大学出版社、北京

出版年：2012

掲載頁：pp718-731

著者：包慕萍

論文題名：「伊東忠太の建築論と中国調査」

雑誌名：中国近代建築研究と保護(八)

査読有無：有

出版社：清華大学出版社、北京

出版年：2012

掲載頁：pp705-717

著者：包慕萍

論文題名：「中国文物制度における近代建築の評価について」

雑誌名：日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2 建築歴史・意匠

査読有無：無

出版社：日本建築学会
出版年：2011
掲載頁：pp909-910

著者：包慕萍
論文題名：「文理融合による租界研究の
実践：大里浩秋・貴志俊彦・孫安石編著『中国・
朝鮮における租界の歴史と建築遺産』を
読む」(書評)
査読有無：無
出版社：中国研究月報 65(6)
出版年：2011
掲載頁：pp25-31

[学会発表](計 8 件)

著者：包慕萍
論文題名：「元の大都の土地計画と“胡同制”」
学会名：中国古代建築史国際フォーラム
開催場所：近畿大学
開催年月日：2013年12月7日

著者：奥富利幸
論文題名：「明治期日本人の中国建築フル
ードワークとその研究方法」
学会名：中国古代建築史国際フォーラム
開催場所：近畿大学
開催年月日：2013年12月7日

著者：包慕萍
論文題名：「遊牧文明の視点から元の大都の
都市計画を読み直す」
学会名：寧波保国寺大殿建成 1000 周年学術
研究会兼中国建築史学会
開催場所：寧波六楼金色大庁
開催年月日：2013年8月23日

著者：奥富利幸
論文題名：「伊東忠太と大江新太郎の建築進
化論の再考：満洲建築調査から」
学会名：日本建築学会
開催場所：北海道大学
開催年月日：2013年9月1日

著者：包慕萍
論文題名：「从清朝统治版图考察中国城市与
建筑近代化过程（清朝の統治版图から中国都
市・建築の近代化過程を見る）」
学会名：2013 中国近代建築与都市史研究方
法研討会
開催場所：上海、同済大学
開催年月日：2013年6月16日

著者：
論文題名：「考古新発見によるカラコルムの
都市空間構造の再考」
学会名：中央大学人文科学研究所公開講演会
（招待講演）
開催場所：中央大学
開催年月日：2013年1月23日

著者：BAO Muping
論文題名：「Wooden Buddhist temples in
Karakorum during and post the Mongol」
学会名：Empire, Senior Academics Forum on
Ancient Chinese Architectural History
開催場所：Australia, Melbourne University
開催年月日：2012年10月27日

著者：包慕萍
論文題名：「近代アジア建築思想史の試み：
伊東忠太の建築論と中国調査」
学会名：第13回中国近代建築史年会
開催場所：台湾、金門大学
開催年月日：2012年7月19日

[図書](計 5 件)

著者：玉井哲雄, 包慕萍他共著
図書名：「アジアからみる日本都市史」
出版社：山川出版社
出版年：2013
全頁：336
掲載頁：pp234-265

著者：尾崎雄二郎、竺沙雅章、戸川芳
郎, 包慕萍他共著
図書名：「中国文化史大事典」
出版社：大修館書店
出版年：2013
全頁：1506
掲載頁：70

著者：藤森照信, 包慕萍
図書名：「近代建築のアジア」
出版社：柏書房
出版年：2013
全頁：264
掲載頁：pp036-257

著者：藤森照信, 包慕萍
図書名：「近代建築のアジア」
出版社：柏書房
出版年：2013
全頁：272
掲載頁：pp234-265

著者：奥富利幸
図書名：「大江新太郎の満洲調査 - 近代日本
の建築の将来を見据えて（危機における共同
性）」
出版社：風媒社
出版年：2012
全頁：252
掲載頁：pp102-135

6. 研究組織

(1) 研究代表者
氏名：奥富利幸 (OKUTOMI Toshiyuki)
所属：近畿大学・建築学部・教授
研究者番号：70342467

(2)連携研究者

氏名：包 慕萍(BAO Muping)

所属：東京大学・生産技術研究所・協力研究
員

研究者番号：40536827